

2025年3月23日

島 剛

戦後日本の代表的クラシック作品

黛敏郎:

涅槃交響曲(1958年)

ねはん【×涅槃】吹き消すことの意》仏語。1 煩惱(ぼんのう)の火を消して、智慧(ちえ)の完成した悟りの境地。一切の悩みや束縛から脱した、円満・安楽の境地。仏教で理想とする、仏の悟りを得た境地

楽章の構成

最初に第1楽章のみが「カンパノロジー」の題でNHK交響楽団により放送初演された。その後それを第1楽章として取り込み、天台宗の經典に基づく読経が加わる第2楽章以降を追加し、大交響曲として仕上げた。男声合唱は2, 4, 5, 6楽章で加わる。楽章間は休みなく全曲が連続して演奏される。

第1楽章 - カンパノロジー I (9:16)

合唱はなくオーケストラのみ。スペクトル解析された梵鐘の倍音がオーケストラで模倣される。

2 群のバンダと交互に演奏され、鐘の呼び交わしが表現される。

第2楽章 - 首楞嚴神咒(しゅれんねんじんしゅう) (10:33)

男声合唱が加わる。一つの音程を反復する読経の様式で、天台宗の經典が歌われる。その音程が積み重なっていった最後は半音12音全てを含む和音へと発展する。

第3楽章 - カンパノロジー II (3:56)

第4楽章 - 摩訶梵(まかぼん) (2:26)

第5楽章 - カンパノロジー III (5:03)

第6楽章 - 終曲(一心敬礼) (5:11)

演奏: 指揮: 外山雄三、NHK交響楽団(KICC2020)

芥川也寸志

交響管弦楽のための音楽

芥川也寸志が1950年に作曲した管弦楽曲。

NHK放送25周年記念事業の懸賞募集管弦楽曲応募作として作曲。審査の結果、團伊玖磨の交響曲第1番とともに特賞入賞し、作曲者の出世作となった。

I Andantino 4:15

II Allegro 4:50

演奏: 指揮: 芥川也寸志、新交響楽団(Fontec FOCD3208)

三善晃

響紋 (きょうもん)

、オーケストラと童声合唱のための「響紋」は、日本の作曲家、三善晃が1984年に作曲した児童合唱と管弦楽のための作品である。

、三善晃の合唱と管弦楽のための三部作(1971年《レクイエム》、1979年《詩篇》)の一つです。「これらは、当時の私にとっては、直接的には、自分の体験と記憶に基づく第2次世界大戦の犠牲者への鎮魂と非戦の祈りだった。だが、その祈りは、21世紀になった今なお、新たに歌い続けられなければならない。」(三善 晃)。

ピアノ伴奏は高度な技術を要するが、管弦楽の重層な音の絡みを見事にリダクションしてあり、合唱のコンサートとしても演奏できます (12:38)

演奏: 指揮: 沼尻竜典、東京フィルハーモニー (Camerata CMCD-99037)

藤家溪子

思い出す 人々のしぐさを (9:59)

54歳の時に名古屋市「しらかわホール」で視聴しました。この作品は1995年の尾高賞作品です。

透明感があり極めて光、影、風を抽象化した自然描写を感じます。

演奏: 指揮: 岩城宏之、オーケストラ・アンサンブル金沢 (Polydor POCG-1860)

以上